日刊工業新聞

年月日	24	08	05	ページ	12	NO.	

がれき不純物自動除去

FUJI、AI画像認識

【名古屋】FUJIは大成ロテック（東京都新宿区）の協力のもと、産業廃棄物中間処理施設でがれき類をリサイクルする際に不純物を人に代わって除去する廃棄物選別ロボット「アールプラス＝写真」を開発し、発売した。人工知能（AI）による画像認識技術により、人間と同等以上の速度での選別を実現した。

消費税抜きの価格は5000万円以内になるという。三井住友ファイナンス&リースの持続可能な開発目標（SDGs）リース「みらい2030」での提供も可能。

既設のコンベヤー上に載せるだけで設置でき、傾斜角は0―20度まで対応。筐体（きょうたい）内部のロボットが下に流れるコンベヤー上のがれき類に混じる金属や木くずなどの不純物を正確に検出、除去する。選別回数は1時間当たり最大1800回。

現在、不純物は粉塵や騒音などが発生する中、手作業で取り除いており、労働力不足と安全性の確保が課題だった。

そこで、不純物の選別ノウハウやメンテナンス時の作業性の改善に関する大成ロテックの指導のもと、FUJIが電子部品実装機の技術を生かしてロボットを開発。大成ロテックはこれを東京青海合材工場（東京都江東区）にみらい2030を使って導入し、11月に稼働する予定。

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社